

令和 3 年度

教育指導計画

京都市立向島秀蓮小中学校

I 教育理念と校訓

(1) 教育理念

【豊かな人間性を育み、人間力を高める】

向島秀蓮小中学校は、「未来を担う子どもたちのために新しい学校の創設を」との地域や保護者の願いのもと、9年間の学びと育ちのつながりを一つにした新しい施設一体型の「義務教育学校」である。

地域の人々の願いや協力によって支えられる本校教育においては、地域の人々と連携し、共に地域の子どもたちを育していくという使命感をもって、教育活動を地域全体で推進していくことが大切になる。義務教育学校として、新たに本校の教育が発展していくために、向島地域の歴史や取組、地域住民の学校への思いを受け継ぎ、家庭・地域社会との連携・協力により、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「**変える・変わる そして輝く**」のコンセプトのもとに「**学校が育つ 地域が育つ 人が育つ**」学校教育を推進していかなくてはならない。

社会に目を向けると、子どもたちが生き抜いていくこれからの中は、IoTや人工知能等の情報技術の進展やグローバル化といった変化が人間の予測を超えて急速に進展していくと言われている。未来を担う子どもたちが、こういった社会変化の中にあっても、高い志や意欲をもった自立した人間として自分と社会の豊かな未来を創造していく力を育むことが求められている。

本校の教育においても、10年後、20年後の社会情勢を鑑みながら、「意欲をもって自ら学び、考え、表現する力」を身に付けるための学びを軸としつつ、「一人一人の未来を拓く力」の育成を図つていかなくてはならない。また、社会がいかに目まぐるしく変化する時代になったとしても、生きていく上で大切にしたいことを、自らを律しつつ、他者と協働し、たくましく生きるという「人としての在り方」を実現させることを考えている。そのために、「誠実さ・謙虚さ・思いやり・感謝・純粋な心・挫折に負けない心」といった豊かな人間性を育むことを教育の柱とし、その人間性を持って、社会変化に対応できる「知・徳・体」のバランスのとれた人間力を高める教育を充実させていかなくてはならない。

最後に、義務教育学校として開校した本校では、9年間という今までにない長く連続した期間の中で、子どもたちの学びと育ちをつなげていくため、授業の質を高めることをねらいとした新学習指導要領の教育改革の中で果たす役割は大きく、義務教育9年間を見通したカリキュラムの系統的な指導を実践し、心豊かで、学び続ける姿勢を持った人間の育成を目指していく。そして、どのように時代が変化しようとも一人一人が豊かに生き抜いていくために「豊かな人間性を育み、人間力を高める」という教育理念を掲げ、その理念を創造・実現させていくためには、本校教育に携わるすべての人が使命感と情熱を持ち続けていくことが大切になる。

(2) 校 訓

【「自立」「清心」「貢献】

自立：①主体的に学びに向かい、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができる人間の育成

②困難を乗り越えるたくましい心を持ち、他者と助け合いながら協働できる人間の育成

清心：①美しい蓮の花のように純粋で清らかな心を育み、誠実・謙虚で思いやりのある人間の育成

貢献：①地域や社会に向き合い関わり合い、自己実現を目指すとともに、社会のため人のために行動できる人間の育成

②「人とつながり、ともに学び、支え合う力」を高め、より良い自分、より良い社会の実現のため自ら考えて行動することができる人間の育成

II 教育目標とめざす姿

(1) 教育目標と資質能力

一人一人の人間性を高め、未来を拓く力の育成

<未来を拓く力=9年間で身につけたい資質・能力>

- ・考える力 =・主体的に課題について学び、自らの考えを持つことができる。
- ・発信する力 =・自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
- ・コミュニケーション力 =・考え方や立場の違いを理解し、自分の考えを論理的に話すなど表現することができる。
・相手の考え方を理解して受け入れたりして、共通理解を深めることができる。
- ・折れない力 =・失敗を恐れず、たくましく挑戦し続けることができる。
- ・多様性を受容する力 =・他者への思いやりの心を持ち、多様な人と協働し、共に生きていこうとすることができる。
- ・自律的活動力 =・自分を知り、自らを律する力を身に付け、誠実かつ実直に、強い正義感を持って行動できる。

秀蓮 PRIDE プロジェクト

- ・向島秀蓮の生徒であることと、その学び舎における9年間のひたむきな学びの中から得られる自信と誇りを育み、未来を拓く力の育成を図る教育構想の総称

「未来を拓く力」を育成するために重点化した6つの資質・能力は、自立した社会人としての必要な基礎力でもあり、どのように時代が変化しようとも豊かに生き抜いていくために必要な力と考える。また、9年間を見通した「学びのつながり」「育ちのつながり」「人のつながり」の3つのつながりを核としたカリキュラムで学び、「学びを習得していくプロセス」や「学校教育全般の中においてひたむきに取り組む過程」の中で、結果として身に付くものとしてとらえる。

(2) 目指す子ども像

卒業までに 実現させたい姿	ひたむきに 学び続ける姿	たくましく 誠実な姿	豊かに 生き合う姿
ビジョンステージ	ひたむきに学び続ける姿	たくましく誠実な姿	豊かに生き合う姿
チームステージ	協力し学び合う姿	挑戦し高め合う姿	豊かにかかわり合う姿
ベースックステージ	いきいき学ぶ姿	やさしくすなおな姿	なかよくつながる姿

(3) 目指す学校像

向島秀蓮小中学校に対する地域・保護者そして生徒の期待感は大きい。反面全く新しいシステムの学校であり、学校に対する不安もある。生徒一人一人の良さが生かされ、一人一人の生徒に「居場所」があり、励まし合える仲間がいるなど「温かさ」を合言葉とした学校・学級づくりを通して生徒がいつも「通いたい」と思える学校の実現を目指し、地域・保護者の期待に答える「通わせたい、信頼のある学校」の実現が大切になる。

- ・「なりたい自分」と「確かな学び」をつなぐ小中学校
- ・豊かな心を育み、一人一人が大切にされた温かな小中学校
- ・家庭、地域とつながり、ともに育つ小中学校

(4) 目指す教職員像

- ・これまでにない「あたらしい学校」としての教職員体制を構築していくために、これまでの組織文化、学校文化にともなう観念から一線を画し、「変える、変わる」を自らが体現する教職員。
- ・「教育は人なり」。人は人から学ぶものであり、教育は人とのかかわり合いの中で育つもの。情熱と使命感を持って生徒に向き合い、向上心を持って指導できるよう学び続けることが大切。
- ・子どもに良い教育を提供していくためには、提供者である教職員集団の礎が温かく協力的な人間関係でなくてはならない。職場での出会いを大切にし、お互いの良さを認め合い、明るく樂しく、意欲と活気にあふれ、共に語り合い、仕事の厳しさを共有し、そして協力・助けあう。全教職員が組織として活動できる同僚性の高い人間関係こそが「いい学校」の原点となる。

- ・目指す子ども像の実現に向けて切磋琢磨できる教職員集団

- ・「情熱」「使命感」「責任感」と子どもへの深い愛情を持って教育実践できる教職員集団

- ・互いを思いやれる同僚性の高い「チーム秀蓮」としての教職員集団

(5) 生徒・教職員共通スローガン

教育目標および目指す姿の実現に向け、生徒と教職員の共通のスローガンを次のように掲げる。

「果敢に挑戦、知らない自分に会いに行け！」

III 学校経営方針

地域の期待を背負ってたつ学校を経営することに誇りをもち、チームで教育目標と目指す姿の実現をめざすため、以下のように方針を示す。

(1) 学校運営

- ・未来を拓く力の育成を図ることはキャリア発達を支援することにほかならず、キャリア教育の視点をもってすべての教育活動を推進する。
- ・「学力向上」を根幹に据えて学校経営を進め、定期調査として小中一貫学習支援プログラムを用い、PDCAサイクルを回す。確認テストを教職員が喜び合う機会の一つとする。
- ・義務教育学校という新たな学校だからこそ実現できる新しい教育をチームで創造していく。
- ・学習者目線に立った教育活動を展開する。
- ・SDGsの目標達成を視野に入れた教育活動を実践する。
- ・ミドルリーダーを中心とした義務教育学校としての創造的、組織的学校運営を図る。
- ・学校教育目標の達成を視野に置いた予算の計画及び執行にあたる。
- ・小中学校運営協議会を軸に保護者・地域との連携を密にし、協働しながら社会に開かれた教育を推進する。
- ・学校だよりやHP、学校公開などを積極的に活用し、教育活動を地域、保護者に発信する。
- ・校務の効率化、業務改善の視点をもって学校運営を行い、働き方改革を推進する。
- ・アンケートや学校評価等を軸としたPDCAサイクルを確立させ、教育課題を明確にしながら改善を図っていく。

(2) 豊かな心

- ・「人間性を高める」を実現し、「多様性を受容する力」を育成するのために、人権教育や道徳教育を推進し、「いのち」の大切さや人権尊重の理念を正しく理解させるとともに、「子どもの命を守りきる」教育活動を全教職員で進める。
- ・道徳教育を要とし、「考え議論する道徳」の実践を通して、子どもたちの相互理解を深め、心豊かな人間を育成する。

(3) 学習指導

- ・評価を生徒の学習改善の機会ととらえ、主体性を高め、苦手を克服する勇気づけを行うためのものとして取り組む。
- ・「自ら学ぶ意欲」を高めていくため、課題解決学習を軸にICTを効果的に活用する授業への改善を図り、反転学習に積極的に取り組む。キーワードは、「共有」と「徹底」。
- ・自ら課題を設定し、解決に向け粘り強く取り組む活動を企図し、「折れない力」の育成を図る。
- ・ICT等を用いた個別最適な学びと社会につながる協働的な学びを往還させることを意図し、誰一人取り残さない教育の実現を図る。

(4) 生徒指導

- ・「自尊感情」を高めることを中心に据えて教育活動を行う。「北風」ではなく「太陽」となる。
- ・生徒理解を基本とし、正しい言動がとれる生徒の育成のため、一人一人の心に寄り添った丁寧な指導・支援を心がける。(生徒を理解しようとする教員の意欲的な姿勢が生徒・保護者の心を動かし、信頼関係の基礎となる。)
- ・「主体性」を高め、自律的活動力を育成する生徒会活動を推進する。
- ・生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を活かした学級経営・授業づくりを推進し、自己教育力を高める。
- ・ルールに頼らず生徒への問い合わせ・提案を重視した指導を行う。

(5) 健やかな体

- ・睡眠に関わる取組を重点化する。
- ・本校で目指す「人間力」のすべての基盤は健やかな体と心の調和であり、日常的に生活習慣や体力の向上を目指した取組の充実を図る。

(6) 総合育成支援教育

- ・総合育成支援教育の視点から全教職員の理解と認識を深め、学習や生活に困りのある生徒の発達を育んでいくよう特性に応じた多様な学習へのアクセスを整えながら教育実践を進める。
- ・育成学級における生徒一人一人の個性・資質・能力を最大限に引き出し、学習や生活習慣の定着を図るとともに、自立した生活ができるように指導する。また、交流学級など連携を深め、児童生徒間の連帯感を高め、共生社会に向か、共に学び合う意識を育成する。

IV 教育の特色と内容

(1) 秀蓮PRIDEプロジェクトを支える教育システム

- ① 9年間のつながりを「4—3—2制」の3つのステージで進める指導体制の充実を図る。
- ② 生徒の発達段階を考慮した教科担任制を推進する。
- ③ 「タテ持ち」の導入により、協働した授業作りを実現し、質の高い教育を提供する。
- ④ 育成学級や通級指導教室（つばめ教室）や日本語教室（国際教室）等の柔軟な運営による個々の児童生徒のニーズに沿った指導

(2) 秀蓮PRIDEプロジェクト

9年間を見通した「つながり」のあるカリキュラムで鍛える ～秀蓮教育を支える3つの柱（つながり）～

- ① 学びのつながり：9年間を通して、授業の質の向上と、一人一人の学びを確かなものにする

<具体的取組>

- 「自ら考え表現する力」の育成のため、共に学び合う授業づくりの研究を進める。

・研究を進めることができ本校のカリマネであることを共通認識し、研究発表をその成果を確認す

る場、および成果を喜び合う機会の一つとする。

- ・全学年において、「書くこと」（振り返りの活用）を習慣化し、「考える力」「伝える力」の育成につなげていく。

●英語によるコミュニケーション力の育成を図る。

- ・外国の文化・歴史等の理解を深め、英語によるコミュニケーション力を身につけ、グローバル化に対応できる資質・能力を培う英語教育の充実を図る。
- ・イングリッシュデイを充実させるなど英語活用意識を高める取組および活用の機会を保障する取組を推進する。

●チャレンジタイム（モジュール）の充実を図る。

- ・ICTを使って短時間の学習に取り組む等、基礎力を身に付け、集中力を持って授業に臨める姿勢を習慣化させる。
- ・「トークトレーニング」を取り入れ、「何でも話せる学級集団づくり」「話をつなぐ学級集団づくり」「話すスキルアップ」「聞くスキルアップ」をめざす。

●全学年において総括考查に取り組み、学びに向かう姿勢を確立させる。

- ・学びに向かう姿勢を確立していくために、1年生より学校全体で総括考查に取り組む。
- ・家庭教育の充実を図る機会、生徒の頑張りを評価するための機会として位置付ける。

●主体的に学ぶ態度の育成をねらい、授業と家庭学習の連動を視野においていた取組を展開する。

- ・反転学習への挑戦やデジタルドリルの使用などGIGA端末を活用した取組を推進する。

② 育ちのつながり：9年間を通して、豊かな心・人間性を磨き育む教育を大切にする

<具体的取組>

●学びに向かえる温かな学級集団づくりを重点化し、一人ひとりの未来を大切にする。

- ・生徒指導の三機能「自己決定」「共感的人間関係」「自己存在感」を意識した学級づくりを通して、温かな空気感の教室や温かな人間関係が構築できる学級集団づくりを重点にする。

●自尊感情を育むピアサポートを充実させ、未来に生きる人間性を鍛える。

- ・9年生までの異年齢集団による縦割り活動や他者を支える活動を通して、上學年の生徒は、リーダーシップを發揮し、下學年の児童のサポートをすることで人の役に立っていることを実感することにより「自己有用感」を高め、自分を大切に思える「自尊感情」を育む。
- ・下學年の児童には「あこがれ感」から自身の将来を上學年に重ねて行動できるようになる、上學年には「模範意識」が育つなど、たくましく誠実な心の育成につなげ、学年を越えて認め合うなど、子どもたちの絆を深める。

●生徒会やベーシック委員会の活動等を通して主体性を高め、自律的活動力の育成を図る。

- ・「秀蓮フェスティバル」や「向島秀蓮小中学校 十の宣言」取組を軸に9年間のつながりの中で、主体的に行動し、自ら律する力を高める。フェスティバル等での活躍を評価する場ととらえるとともに、その姿を教職員が喜び合う機会とする。

●人間性を育て磨く「こころ科」を新設する。

- ・対話を通して、1つのテーマについて考えたことや感じたことを述べ合い、聞き合い、考えを深め、違いを活かし合い、補い合いながら、自己の「生き方」について主体的に考え未来を生きることについて深く考えることができる力を身に付けさせる。
- ・対話を通して、他者への思いやりの心を持って多様な人と協働できる力を身につけ、自己肯定感を高める。
- ・茶道体験等の9年間の取組を通して、集団における秩序や調和、また礼儀を重んじる「和の心」を学び、品格・礼節などの人間性の基礎を育成する。

③人のつながり：9年間を通して、多様な人とのかかわりを大切にし、子ども・家庭・地域・学校がともに育つ教育を大切にする。

<具体的取組>

●地域の良さを学び、「貢献」の本質を探るとともに、キャリア教育の視点から、未来につながる総合的な学習「蓮花タイム」を通して探究力を育成し、自己肯定感を高める。

- ・「探究の過程」を意識した課題解決型学習を通して、より深い学びにつなげる。

「探究の過程」＝課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現（発表）

- ・「貢献」をテーマに地域社会とかかわり、地域課題の発見、解決を考え深めるプロセスを通して、実社会・実生活に生きる課題設定力、課題解決力や探究力を育成する

- ・貢献する心を育て、利他の精神や奉仕活動を学び、自己肯定感を高める。

- ・地域と連携した学習を通して、人とのつながりの大切さや、地域を愛する心を育成する。

●自己実現を目指す「防災教育」「ボランティア活動」を推進する。（総合的な学習「蓮花タイム」）

- ・防災における拠点の役割を担う本校において、防災教育を軸とした地域のリーダーとしての生徒の意識の高揚と行動化を図る。

- ・地域ボランティア活動などを通して、人の役に立つことの幸福感を感じ、地域のために役に立とうとする子どもの育成を図る。

- ・児童生徒が地域、社会に向き合い関わり合うことで地域への愛着心やモラルを高め、自分の人生を切り拓く力を育むため、社会を生き抜き、生き合うための資質・能力を育成する。

●向島地域の良さを発見し、地域を誇る心の育成

- ・向島地域の人との連携、協力により、人とのつながりに感謝し、愛着をもたせる。

(4) 3つのつながりを支える健やかな体

<具体的取組>

①「秀蓮 PRIDE プロジェクト」の推進を図る。

- ・「食事」「睡眠」「運動」の3本柱を中心とした健やかな体を育成するプロジェクトの推進

●食習慣の確立を目指した取組を推進する。

- ・朝食欠食率・給食の食べ残し 0%，食事が楽しいと感じる子ども 100%を目指す。

●適正な睡眠について学び、実践する。

- ・自分に合った睡眠時間を知り、徹底して実施していく。

●基礎体力の向上を目指した9年間の系統的な取組の充実を図る。

- ・ジャンプアッププログラム等の体力向上の取組を充実させ体力の向上を図る。

- ・生徒会やベーシック委員会の活動において、体を動かすことを通じた仲間づくりを推進し、運動の楽しさを味わい、体力向上に向けた主体性を培う。

②生活習慣の確立を目指し、家庭との連携を重視する。

- ・早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣の定着を目指した取組、連携を充実させる。

- ・食育学習を通して望ましい食習慣の定着を図り、健康な体と豊かな心を育成する。